

「道路貨物運送」倒産動向（2024 年上半期）

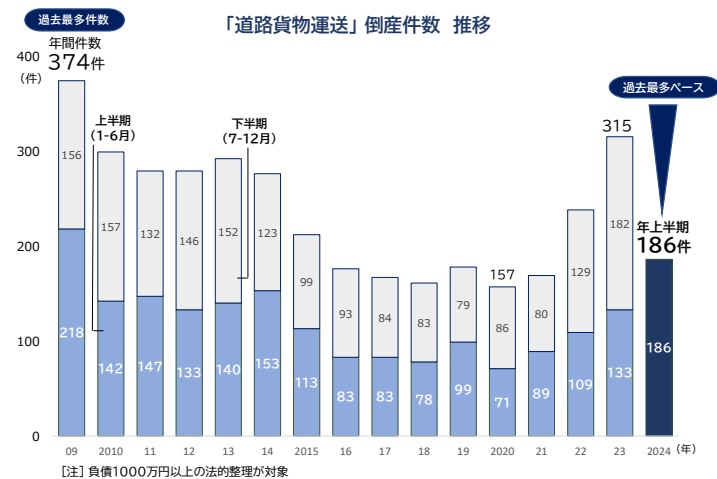
道路貨物運送業者の倒産、最多ペースで推移 ～ 燃料価格の高騰と人手不足背景に増加 ～

2024 年上半期（1-6 月）の道路貨物運送業者の倒産件数は 186 件。前年同期（133 件）から 39.8% 増となり、4 年連続で増加した。上半期としては 2009 年（218 件）に次ぐ 2 番目となり、このままのペースで推移すると年間最多となった 2009 年（374 件）を上回る可能性がある。

一方、負債総額は 227 億 8800 万円と前年同期（250 億 6800 万円）を下回り、1 社あたりに換算すると約 1 億 2300 万円となった。10 億円を超える倒産は発生せず、倒産件数は 1 億円未満の小規模な業者が 54.8% を占めた。

倒産要因として多く見られたのが、燃料価格の高騰と人手不足（人件費負担）だった。軽油価格は燃料油価格激変緩和補助金導入後でも 1 リットル 155.2 円（7 月 3 日時点、資源エネルギー庁）で、10 年前の 147.4 円（2014 年 7 月 7 日時点）に比べると 7.8 円も高い。小規模事業者としては、収益確保のために荷主に対して値上げ交渉を進めたいところだが、安値の同業に流れて失注しかねず、継続的には交渉がしづらいという現状も経営悪化を招いている。

時間外労働の上限規制の開始による深刻な人手不足で、備車コストの増加が営業損失の要因となったり、コロナ後の荷動き回復で増車したものの、燃料費や部品の値上げで収益を圧迫され、車両リース料や借入返済など金融債務が負担となるケースもあった。年下半期も引き続き道路貨物運送業者の倒産は高水準で推移することが予想される。



年上半期	倒産件数	負債総額 (百万円)	1社あたり負債 (百万円)
2015	113	14,583	129
2016	83	7,772	94
2017	83	9,196	111
2018	78	7,260	93
2019	99	9,921	100
2020	71	6,830	96
2021	89	9,145	103
2022	109	18,979	174
2023	133	25,068	188
2024	186	22,788	123

株式会社帝国データバンク 情報統括部長 藤井 俊

 【問い合わせ先】 下川 純 03-5919-9341（直通） jun.shimokawa@mail.tdb.co.jp

 情報統括部： tdb_jyoho@mail.tdb.co.jp

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。